

チップロード ブロックタイプ

施工要領書

製品内容

チップロード ブロックタイプ

材 料	サイズ	梱包単位	標準使用量
ゴムチップブロック	100×200×50mm(0.6kg/個)	25個/ケース(約0.5㎡)	50個/㎡
接着剤	小面積用	5kg缶	4缶/ケース(約5~6㎡×4缶)
	大面積用	16kg缶	1缶(約16~20㎡)
横ズレ防止用 補助材	本 体	75×2,020×50mm(1.3kg/本)	固定専用釘5本 /本体1本
	固定専用釘	200mm(0.1kg/本)	

施工の前に

【共通】

- 本製品は温度や水分などの影響によって製品寸法が変化する事がありますので、直射日光や高温、低温、雨水等を避けて保管してください。
- 下地の不陸調整が不十分な場合、施工面が凸凹になり歩行時のつまずきや転倒等の事故につながる恐れがある為、不陸調整はしっかりと行ってください。
- 下地には必ず2~3%程度の排水勾配をつけてください。

【接着施工】

- ゴムチップブロックと接着剤は別梱包となっていますので、施工前にご確認ください。
- 接着剤は付着すると取り除けませんので、周囲は必ず養生してください。
- 下地が濡れていると接着不良を起こしますので、下地はよく乾燥させてください。
- 夏期、材料が高温になると可使用時間が極端に短くなることがあるので、材料は風通しの良い日陰などの気温の低いところに保管してください。
- 冬期、材料が低温になると接着剤の粘度が高くなって塗布作業に不具合を生じることがあるので、材料は室内などの気温の高いところに保管してください。
- 施工にあたっては次のものをご用意ください。
○ゴム鏝または櫛目鏝 ○シンナー(工具洗浄用) ○保護具(ゴム手袋、マスク、ゴーグルなど) ○カッター、ジグソー ○その他左官道具一式

【敷設施工】

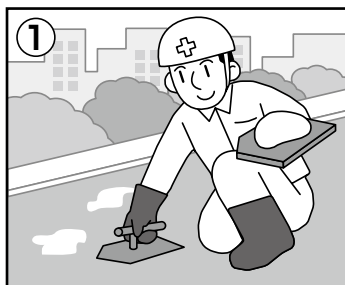
- ゴムチップブロックと横ズレ防止用補助材は別梱包となっていますので、施工前にご確認ください。
- 施工にあたっては次のものをご用意ください。
○トンボ ○コンパクター ○カッター、ジグソー ○プラスチックハンマー ○その他左官道具一式

施工方法

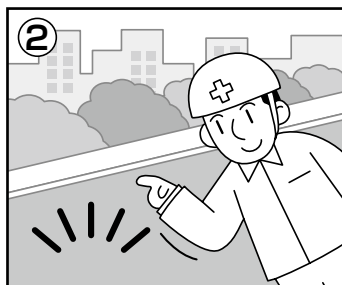
〔接着施工〕

① 下地のチェック ■適応下地…セメントモルタル、コンクリート(金鏝押さえ)

下地の清掃 及び補修



- 施工面は金鏝押さえとし、下地の不陸(凸凹)、欠損部、クラックなどの不良箇所はあらかじめ補修してください。



- 下地には2~3%程度の排水勾配をつけ、縁石には排水孔を設けるなどして水はけをよくしてください。
- 下地は完全に乾燥させてください。下地が湿っていると接着不良の原因となります。



- 下地のホコリ、ゴミ、レイタンス、油分などは完全に除去してください。

2 ポイント出し



- 基準点からポイント出しを行い、位置を決めます。
- 施工面を1.5m程度のマスで区切るように墨打ちをし、交点を決めます。

3 接着剤の塗布



- ゴム鏝または櫛目鏝を使用して接着剤を塗布し、所定時間放置して下地となじませます。(なじませる時間は下表を参照してください。)
- 接着剤の塗布とゴムチップブロックの貼り合わせ作業は、2~3㎡単位で繰り返し行ってください。
- 標準塗布量

	標準塗布量
チップロード ブロックタイプ	800~1000g/㎡

4 貼り合わせ



- 初期粘着の確認を行いながらポイントラインがずれないように注意しながらゴムチップブロック同士を密着させて貼り合わせていきます。
- カットが必要な場合は、カッターなどで切断してください。

	夏(25~35℃)	春・秋(15~25℃)	冬(5~15℃)
下地とのなじませ	5~10分	10~20分	10~20分
貼り合わせ可能時間	30~40分	40~60分	40~60分
標準硬化時間	約1日	約1日	約2日

5 転圧・再転圧



- 貼り合わせ直後にローラーなどで転圧をかけて、よく圧着させます。
- 端や反り癖などの浮き防止のため、1~2時間後に再転圧をかけます。
※初期粘着が低いので、必ず再転圧を行ってください。
- 部分接着(一部に接着剤、その他を敷設施工)の場合、接着されたゴムチップブロックの側面を目地ラインの基準面とし、非接着のゴムチップブロックを押し付けながら、ブロック間に隙間が生じないように順次、敷設してください。
- 部分接着の場合、端部や役まわりには必ず接着剤を使用してゴムチップブロックを下地に固定してください。

(置敷施工)

1 下地のチェック

■ 適応下地…砕石路盤

- 砕石及びクッション砂を敷き均し、支障となりえる構造物を確認しながらコンパクターによる転圧を行ってください。
- さらにクッション砂を均一に入れてトンボや鏝で仕上げの敷き均しを行ってください。
- 必要に応じて「横ズレ防止用補助材」(別売)を設置してください。

2 ポイント出し

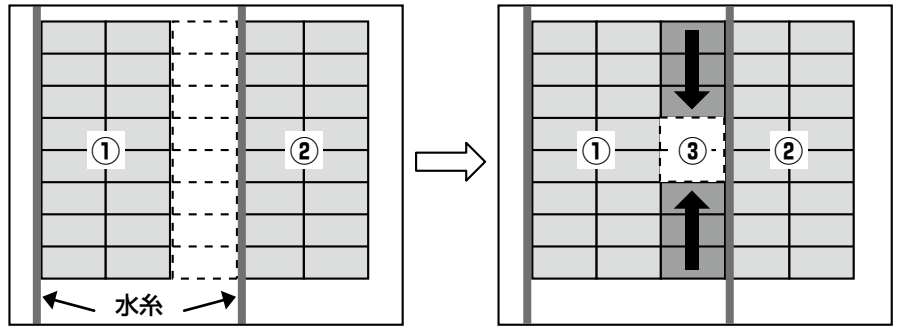
- 縁石や境界ブロック等の側面に、仕上がり高さの墨出しを行ってください。
- 平行する2本の目地ラインの間隔は製品規格寸法の倍数で設定し、水系を張るなどの基準線を設けてください。

3 敷設

- 製品同士は隙間を空けずに密着させ、製品間で押し圧がかかるように敷設してください。
- 貼り伸びによるズレを防止する為、基本的に外側を固定して中央へ向かって敷設していき、中央部で押し込んで調整してください。

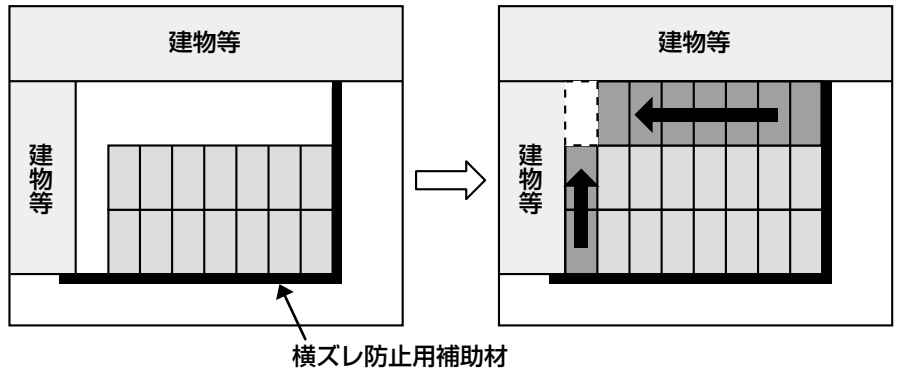
① 中央で押し込む場合

- 水糸等を用いて製品規格寸法の倍数で目地基準ラインを設定し、その手前の製品1列分を空けます。
- 基準ライン以降の敷設が完了した後、空けた部分に製品を外側から中側へ向かって押し込みながら敷設してください。



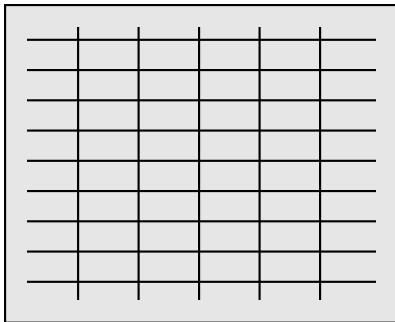
② 固定端部で押し込む場合

- 端部用として目地基準ラインに合わせた寸法、またはそれより若干大きめにカットする。
- 建物の基礎等、圧力をかけても動かないものとの接合部分で押し込んでください。(横ズレ防止用補助材側等の動きやすい部分で押し込むと、ずれる場合があります。)

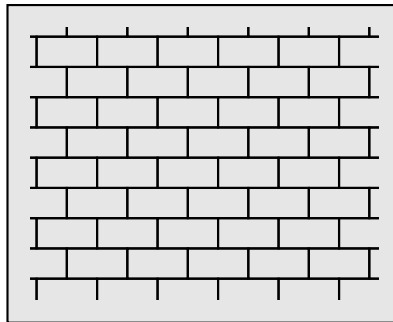


4 模様例

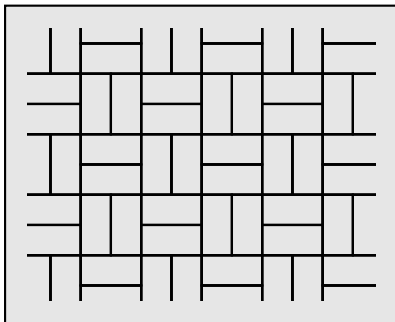
① 通し目地



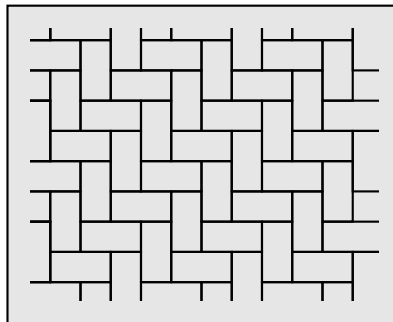
② 馬踏み目地



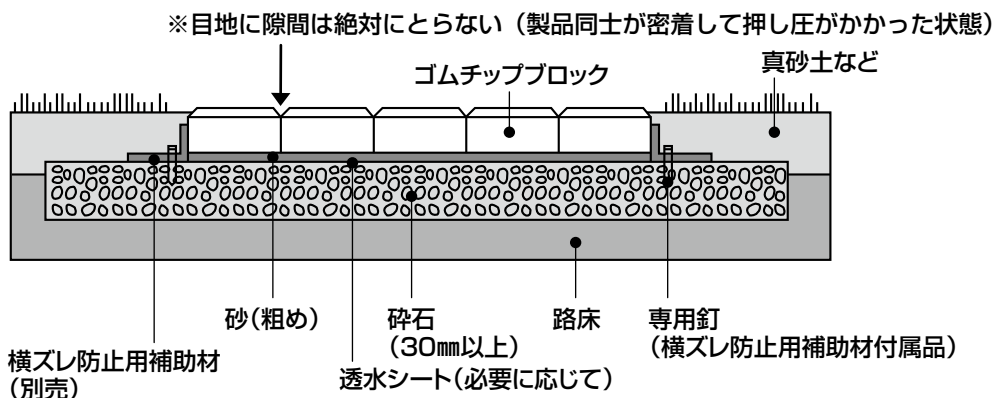
③ バスケット



④ ガーデン網代



5 確認



施工上の注意

【共通】

- 屋外施工では天候や気温に注意し、降雨や強風時、低温時（5℃以下）での施工は避けてください。
- 下地の不陸調整が不十分な場合、経年変化によるゴムチップブロックの反りや変形から施工面に凸凹が生じることがあり、歩行時のつまずきや転倒による事故に繋がる恐れがあります。

【接着施工】

- 気温が5℃以下になる場合は、施工を避けてください。
- 夏期炎天下での施工は、接着剤の硬化が促進されて可使用時間が短くなるので注意してください。
- 水の混入は接着剤の硬化不良の原因となりますので、施工中は水を一切使用しないでください。
- 接着剤が硬化しきらないうちに雨などに当てないよう、必要に応じてシート等で養生してください。
- 下地との接着が不十分な場合（※）、経年変化によるゴムチップブロックの反りや変形から施工面に凸凹が生じることがあり、歩行時のつまずきや転倒による事故に繋がる恐れがあります。
※接着剤の塗布量や下地とのなじませ時間、塗布時の気温等が適正でなかった場合や、下地が濡れていて接着剤が接着不良を起こした場合など。
- 接着剤が硬化するまで少々臭気が出ますので、室内での施工の場合は換気に注意してください。
- 接着剤が肌につかないよう、ゴム手袋やマスク、ゴーグル等の各種保護具をご使用ください。
- より詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【敷設施工】

- 目地に隙間のある一般的なインターロッキングブロックと同様の施工方法では経年変化によるゴムチップブロックの反りや変形などを抑制する事ができませんので、必ず製品間の目地は取らずに密着させてください。
- 特に夏期では製品が膨張気味の為、突合せや押し込みが不十分な場合は気温の低い冬期に製品が縮むことで突合せ面(目地ライン)に隙間が生じ、反りや変形を誘発する原因となります。
- 目地をとったり押し込み圧が不十分だったりした場合には、経年変化によるゴムチップブロックの反りや変形から施工面に凸凹が生じることがあり、歩行時のつまずきや転倒による事故に繋がる恐れがあります。
- ゴムチップブロックを押し込む為にプラスチックハンマー等で叩き込みをする際、調整済みのクッション砂層の平滑性を乱して不陸が生じないように注意してください。